

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察注意報について

令和3年度病害虫発生予察注意報第7号を発表したので送付します。

令和3年度病害虫発生予察注意報第7号

- 1 作物名 さとうきび
- 2 害虫名 メイチュウ類(カンシャシクイハマキ、イネヨトウ)
- 3 発生地域 伊江島、南大東島、宮古島市、八重山群島

4 注意報発令の根拠

- (1) 令和4年1月中旬の宮古島市での調査の結果、新植夏植ほ場の芯枯茎率は15.5%「平年よりやや多」(前年2.8%、平年8.8%、図1左)であった。芯枯茎切開調査の結果、確認されたメイチュウ類幼虫は、カンシャシクイハマキ(52%)、イネヨトウ(48%)であった。1月の合成性フェロモントラップ誘殺虫数(虫数/トラップ/日)は、カンシャシクイハマキ48.5頭(前年29.1頭、平年17.0頭)、イネヨトウ0.6頭(前年2.1頭、平年2.7頭)であった。
- (2) 石垣市での調査の結果、新植夏植ほ場の芯枯茎率は13.7%「平年よりやや多」(前年8.0%、平年8.2%、図1右)であった。芯枯茎切開調査の結果、確認されたメイチュウ類幼虫は、カンシャシクイハマキ(53%)、イネヨトウ(47%)であった。1月の合成性フェロモントラップ誘殺虫数(虫数/トラップ/日)は、カンシャシクイハマキ10.2頭(前年7.4頭、平年6.6頭)、イネヨトウ2.2頭(前年1.5頭、平年1.5頭)であった。
- (3) 病害虫防除員による調査では、波照間島で「多」発生であった。
- (4) 南大東島における芯枯茎率調査の結果は、夏植ほ場で21.1%、株出ほ場で16.6%、発生程度はそれぞれ「甚」及び「多」であった。また伊江島における芯枯率調査の結果は、16.5%で発生程度は「多」であった。(表1、図5)

なお、調査については、発生予察調査基準に準拠し各駐在農業改良普及員、病害虫防除員が実施した。

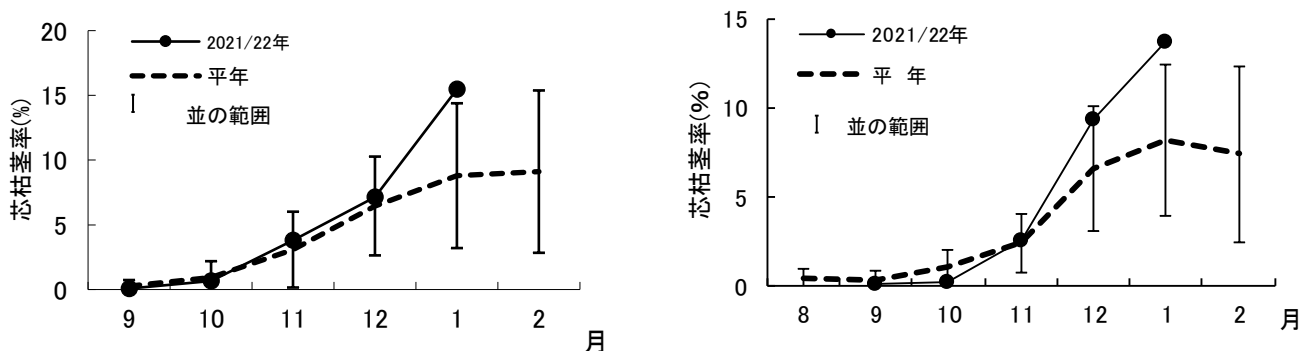


図1 メイチュウ類(芯枯茎)の発生推移(左:宮古島市 右:石垣市)

表1 伊江島及び南大東島におけるメイチュウ類の芯枯莖率

地域名	作型	芯枯莖率(%)	発生程度※
伊江島 ^{注1)}	夏植	16.5	多
南大東島 ^{注2)}	夏植	21.1	甚
	株出	16.6	多

※発生予察事業サトウキビ調査基準に基づき判定

注1) 伊江島は令和4年1月19日に調査した。

注2) 南大東島は令和3年12月10日に調査した。

5 発生生態および被害

- (1) 本県では周年発生する。
- (2) ふ化幼虫は葉鞘の内側を下降して節部の芽や根帯から食入し生長点を加害し芯枯れを起こす(図2、3、4)。
- (3) カンシャシクイハマキ被害はほ場に散在的に発生し、イネヨトウ被害は集中的に発生し坪枯を起こす。

6 防除上注意すべき事項

- (1) ほ場及び周辺の除草を徹底する。
- (2) 乳剤を使用する場合は、葉鞘内に薬液が浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- (3) 薬剤防除後、2～3週間をおいて再度防除を行うことで防除効果が高まる。
- (4) 被害の多い地域では薬剤による一斉防除を行う。



図2. カンシャシクイハマキの幼虫



図3. イネヨトウの幼虫



図4. 芯枯莖



図5. ほ場の様子(伊江島)

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL : (本所)098-886-3880、(宮古駐在)0980-73-2634、(八重山駐在)0980-82-4933

ホームページアドレス : <http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichuboj/index.html>